

「新婚ボケ」

大沢ケイト

●登場人物

男（28）会社員

女（30）男の再婚相手

息子（5）女の息子

男が家の前で電話している。

男「わかりました。明日、後藤谷さんに確認しておきます。いえいえ、お安い御用です。はい、それじゃあ。え？　今からですか。いやあ、もう家の前なんで。嘘じゃないですよ。もう、玄関の真ん前です。嘘じゃないですよ、なんでこんなことで嘘つかなきゃいけないんですか。つくならもっといい嘘つきますよ。え？　そうですね、新婚ですが何か？　幸せボ

ケしてないっすよ。てか新庄さん、
それ毎回言いますけどそろそろパワ
ハラで訴えさせてもらいますよ？
はいはい、お疲れさまです」

電話を切った男、家に入る。

夕食の用意をしたテーブル、女が
ソファでスマホを見ている。

男「ただいま。遅くなった、ごめん」

女「私、考えたんだけど」

男「いきなり？」

女「おかえり」

男「ただいま」

男と女、微笑み合う。

男「(夕食を見て)うまそー。手洗って
くる」

女「ねえ」

男 「ん？」

女 「飽きた」

男 「（何かを察知して）先に手洗ってきたいい？」

女 、不満そう。男、待ての仕草をして、ダッシュで手を洗ってくる。

男 「洗ってきた！」

女 「うがいは？」

男、ダッシュでうがいをしてくる。

男 「してきた！」

女、黙ってテーブルを指し示す。
男、女の様子を伺いながら夕食の席につく。

男「食べていい？」

女「いいけど」

男「やった！ うまそー、いただきます！」

箸を取り、食べだそうとする男。

女、自分だけビールの缶を開ける。

じつと見る男。

女「あ、飲む？」

男「うん」

女「どうぞ（冷蔵庫を指す）」

男、立って冷蔵庫からビールを持ってくる。

男「じゃあ、改めてカンパー」

女「そういうところなんだよね」

男「え？」

女「違う。なんか違う」

男「違うってなにが」

女「なんか、もっと偉そうにしてほしい」

男「偉そうに？」

女「うん。いばって」

男「いばって！？　いいの？」

女「うん。いばって、めちやくちや面倒くさくして」

男「前は子犬みたいな旦那がいて」

女「もう飽きた。今度は俺様がいい」

男「そうなの？　いいけど、俺様かあ。
俺の引き出しに無いんだよなあ」

女「あ、でも根っこは忘れないでね」

男「根っこ」

女「私のことが大好き」

男「忘れないよお」

女「（ニッコリして）じゃ、はじめ！」

男、リビングに入るところから始める。

女「おかえりなさい」

男、無言。

女「お疲れ様。今日も忙しかった？ 電車混んでた？ こんな夜遅くまで働いてくれてありがとう。あ、お風呂とご飯どっちがいい？」

男「飯、食ってきた」

女「あ、そうなの？ そっか（悲しそう
な顔）」

男、キュンとする。

男「いいよ、食べるよ」

女「お腹いっぱいでしょ？」

男「いっぱいだよ、ほんとにはペコペコだ
けど。そんな顔されたら気分悪い
し」

女「ごめんね（悲しそうな顔）」

男、キュンとする。

男「揚げ物ばかりだな。夜遅いんだか
らもうちよっと消化にいいもんにし
てよ。（一口食べて、うまいという
顔）」

女「おいしい？」

男「（うまいという顔で）ま、こんなも
んでしょ」

女、男の隣に座り、男の肩に頭を
乗せる。男、キュンとするが押し
のけて

男「食べにくい」

女「あ、ごめん」

女、悲しそうに席を立とうとする。
男、咄嗟に引っ張る。

女「え？」

男「チョロチョロすんなよ」

女「ごめん」

女、椅子に座る。男と女、視線が
合い見つめ合う。男、立ち上がり

男「ちよっと待って。やめよう、この設
定」

女「え、ダメ？」

男「なんていうか、クセになる。クセに
なっちゃう」

女「ええ？」

男「大好きな人に悲しそうな顔させたい
と思っちゃう。良くない」

女「悲しそうな顔させたいと思っちゃ
う？」

男「悲しそうな顔が可愛くて」

女「うそ」

男「ホント可愛いから」

女「ちよつと待って、私も検証したい」

男「検証って」

女「私も知りたい。大好きな人の悲しそ
うな顔が可愛いのか」

男「（理解して）今度は君が俺様なの
ね。わかった」

女、手を振り、電話を取り出す。

男、あれ？という顔。

女「（電話をかけだす）もしもし、ナオ
キ。誰って私。わかるでしょ？ ほ
ら、この間バーで隣同士だったじゃ
ん。そう。カシユーナツツ山ほど食
べさせたでしょ？（夫、「え？」）

という顔）ねえ、この間人妻とデートしたって言ってたじゃん。いいよ。する？ 明日？ うん。どこ行く？ あ、そこ行きたいと思ってた」

女、男を振り向く。男、しおれている。女、スマホを見せて

女「嘘。誰とも話してないよ」

男、ふくれている。女、男に

女「可愛い。悲しそうな顔させたくなっちゃう」

男「なっっちゃうだろ？」

女「なっっちゃう」

男「良くないだろ？」

女「良くない。ごめんね。でも可愛かった」

男 「俺も」

抱きしめ合う二人。

寝ぼけた顔の息子がドアを開ける。

息子 「ママー、のど乾いた」

抱きしめ合っている二人を見て

息子 「お幸せに」

ドアを閉める。

(終わり)

「新婚ボケ」

● 登場人物

男（28） 会社員

女（30） 男の再婚相手

息子（5） 女の息子

男が家の前で電話している。

男 「わかりました。明日、後藤谷さんに確認しておきます。いえいえ、お安い御用です。はい、それじゃあ。え？　今からですか。いやあ、もう家の前なんです。嘘じゃないですよ。もう、玄関の真ん前です。嘘じゃないですよ、なんでこんなことで嘘つかなきゃいけないんですか。つくならもっといい嘘つきますよ。え？　そうですね、新婚ですが何か？　幸せボ

ケしてないっすよ。てか新庄さん、
それ毎回言いますけどそろそろパワ
ハラで訴えさせてもらいますよ？
はいはい、お疲れさまです」

電話を切った男、家に入る。

夕食の用意をしたテーブル、女が
ソファでスマホを見ている。

男「ただいま。遅くなった、ごめん」

女「私、考えたんだけど」

男「いきなり？」

女「おかえり」

男「ただいま」

男と女、微笑み合う。

男「(夕食を見て)うまそー。手洗って
くる」

女「ねえ」

男 「ん？」

女 「飽きた」

男 「（何かを察知して）先に手洗ってきたいい？」

女、不満そう。男、待ての仕草をして、ダッシュで手を洗ってくる。

男 「洗ってきた！」

女 「うがいは？」

男、ダッシュでうがいをしてくる。

男 「してきた！」

女、黙ってテーブルを指し示す。
男、女の様子を伺いながら夕食の席につく。

男「食べていい？」

女「いいけど」

男「やった！ うまそー、いただきます！」

箸を取り、食べだそうとする男。

女、自分だけビールの缶を開ける。

じつと見る男。

女「あ、飲む？」

男「うん」

女「どうぞ（冷蔵庫を指す）」

男、立って冷蔵庫からビールを持ってくる。

男「じゃあ、改めてカンパー」

女「そういうところなんだよね」

男「え？」

女「違う。なんか違う」

男「違うってなにが」

女「なんか、もっと偉そうにしてほしい」

男「偉そうに？」

女「うん。いばって」

男「いばって！？　いいの？」

女「うん。いばって、めちやくちや面倒くさくして」

男「前は子犬みたいな旦那がいて」

女「もう飽きた。今度は俺様がいい」

男「そうなの？　いいけど、俺様かあ。
俺の引き出しに無いんだよなあ」

女「あ、でも根っこは忘れないでね」

男「根っこ」

女「私のことが大好き」

男「忘れないよお」

女「（ニッコリして）じゃ、はじめ！」

男、リビングに入るところから始める。

女「おかえりなさい」

男、無言。

女「お疲れ様。今日も忙しかった？ 電車混んでた？ こんな夜遅くまで働いてくれてありがとう。あ、お風呂とご飯どっちがいい？」

男「飯、食ってきた」

女「あ、そうなの？ そっか（悲しそう
な顔）」

男、キュンとする。

男「いいよ、食べるよ」

女「お腹いっぱいでしょ？」

男「いっぱいだよ、ほんとにはペコペコだ
けど。そんな顔されたら気分悪い
し」

女「ごめんね（悲しそうな顔）」

男、キュンとする。

男「揚げ物ばかりだな。夜遅いんだか
らもうちよっと消化にいいもんにし
てよ。（一口食べて、うまいという
顔）」

女「おいしい？」

男「（うまいという顔で）ま、こんなも
んでしょ」

女、男の隣に座り、男の肩に頭を
乗せる。男、キュンとするが押し
のけて

男「食べにくい」

女「あ、ごめん」

女、悲しそうに席を立とうとする。
男、咄嗟に引っ張る。

女「え？」

男「チヨロチヨロすんなよ」

女「ごめん」

女、椅子に座る。男と女、視線が
合い見つめ合う。男、立ち上がり

男「ちよっと待って。やめよう、この設
定」

女「え、ダメ？」

男「なんていうか、クセになる。クセに
なっちゃう」

女「ええ？」

男「大好きな人に悲しそうな顔させたい
と思っちゃう。良くない」

女「悲しそうな顔させたいと思っちゃ
う？」

男「悲しそうな顔が可愛くて」

女「うそ」

男「ホント可愛いから」

女「ちよつと待って、私も検証したい」

男「検証って」

女「私も知りたい。大好きな人の悲しそ
うな顔が可愛いのか」

男「（理解して）今度は君が俺様なの
ね。わかった」

女、手を振り、電話を取り出す。

男、あれ？という顔。

女「（電話をかけだす）もしもし、ナオ
キ。誰って私。わかるでしょ？ ほ
ら、この間バーで隣同士だったじゃ
ん。そう。カシユーナツツ山ほど食
べさせたでしょ？（夫、「え？」

という顔）ねえ、この間人妻とデートしたって言ってたじゃん。いいよ。する？ 明日？ うん。どこ行く？ あ、そこ行きたいと思ってた」

女、男を振り向く。男、しおれている。女、スマホを見せて

女「嘘。誰とも話してないよ」

男、ふくれている。女、男に

女「可愛い。悲しそうな顔させたくなっちゃう」

男「なっっちゃうだろ？」

女「なっっちゃう」

男「良くないだろ？」

女「良くない。ごめんね。でも可愛かった」

男 「俺も」

抱きしめ合う二人。

寝ぼけた顔の息子がドアを開ける。

息子 「ママー、のど乾いた」

抱きしめ合っている二人を見て

息子 「お幸せに」

ドアを閉める。

(終わり)